

5 学校区及び学校における給食（昼食、朝食）プログラムの実施状況

（１） ニューヨーク州オルバニー市・オルバニー市学校区

ア オルバニー市はニューヨーク州の州都で、ニューヨーク市から北へ約200キロいったところに位置しているが、市の人口は10万1千人程度にしか過ぎず、全米でもやっとな200位に入るような小さな都市である。

以下、実際に訪問した市内のオルバニー市学校区（Albany City School District）とオルバニー市郊外のシェネンドホワ・セントラル学校区（Shenendehowa Central School District）の二つの事例をとりあげる。

イ オルバニー市学校区は、オルバニー市のダウンタウン（中心地）を管轄する学校区で、約1万6千人の生徒のうち約54％が給食（昼食）プログラムに参加している。参加率の内訳は小学校が64％、中学校が45％となっている。経費負担別では無料給食を受けている生徒が全体の72％を占め、全額給食費を支払っている生徒は20％程度である。

市の中心部のあちこちに空き地があり、ビルとビルの間にある青空駐車場が非常に目立つが、その一角にあまり手入れの行き届いていない住宅が立ち並び、平日の昼間でも多数の若者が家の軒先でたむろしている。人種的には黒人、ヒスパニックが大部分を占めており、この地域をカバーするオルバニー市学校区は生徒の大半が黒人、ヒスパニック系、貧困家庭の子どもという典型的な貧しい市街地の学校区である。

ウ 朝食プログラムには全体の約27％の生徒が参加している。朝食における無料、減額の占める割合は95％超となっている。この学校区では共同調理場方式を採用しており、7つの調理場と10の倉庫があるが、調理場で作られた給食は保温機能のあるトラックで各学校へ運搬され、キッチンにある保温庫へ入れられる。また、冷蔵庫には常温または冷えた方がよい食物が保存され、給食時間になるとそれらを組み合わせて生徒に配膳する。このような共同調理場方式を採用したのは、運営コストの約4割を占める人件費を削減するためであり、実際にその効果はあったといわれている。

エ しかし、給食調理員の賃金が1992年から93年にかけて約10％賃上げされ、将来の財政運営に不安が残るほか、調理場の機械は購入後10～15年経過のものが多く、最近故障が多く（野菜を煮炊きする機械が故障したために、3日続けてサンドウィッチだったこともあるという）、買い替え費用が今後ばく大となり、財政を圧迫する恐れが強い。このため、「安い価格で栄養価の高い給食を」をモットーとして運営してきたものの連邦政府、州政府の援助だけでは運営が厳しくなってきたことから、民間ファーストフード会社から調理設備、器具等の貸与を受けることが検討されている。民間会社による食事の供給自体は学校給食法で禁止されているためできないが、無料で道具だけ借

りようというアイディアである。また、最近では管内の高校のランチルームにジュース（果汁１００％のみ、ソーダ類の学校内での販売は禁止されている）の自動販売機を設置し、コスト削減を図っている。

オ この学校区で生徒に人気のあるメニューはチーズバーガー、魚のフライ、ピザである。以前は昼食のメニューにアイスクリームを入れていたが、無料給食を受ける生徒の中に配膳ラインに何回も並んでは１人で３～４個食べる不届き者がいたので中止したという。毎日のメニューは、生徒に喜ばれ、しかも栄養バランスのとれた給食になるよう学校区の栄養士が工夫を重ねて、作成している。

表４ オルバニー市学校区の給食メニュー

曜日	メ ニ ュ ー
月	メキシコ風ピザ、レタスとトマトのサラダ、冷えた西洋なし、牛乳
火	ターキー（七面鳥）のサンドウィッチ（レタス、トマト入り）、冷たいアップルソース、牛乳
水	魚のナゲット（小さなフライ）タルタルソース、ポテトフライ、ロールパン 冷えた西洋なし、牛乳
木	チーズバーガー、ポテトフライ、冷えたミックスフルーツ、牛乳
金	チキン照り焼き、スイートポテト、フレッシュフルーツ、ロールパン、牛乳

（２） オルバニー市・シェネンドホワ・セントラル学校区

ア この学校区はオルバニー市の市街地から車で２０分程のところにある。学校区事務所の周辺は広い庭を持つ閑静な住宅街になっており、オルバニー市学校区と比べると生活水準は格段に高い。住民の多くはオルバニー市にある州政府、企業に勤める人々で、医者、弁護士など高給取りも多い。人種はほとんどが白人で、黒人、ヒスパニックの住民は少数である。それぞれの学校の施設、設備も充実しており、典型的な裕福な郊外の学校区といえる。新興住宅地であるため、学校区ができたのは約３０年前と比較的新しい。

イ 学校区管理事務所 ― シェネンドホワ・セントラル学校区は小学校７校、中学校２校、高校１校、合わせて８千５百人の生徒を有し、学校区管理事務所はそれら全ての学

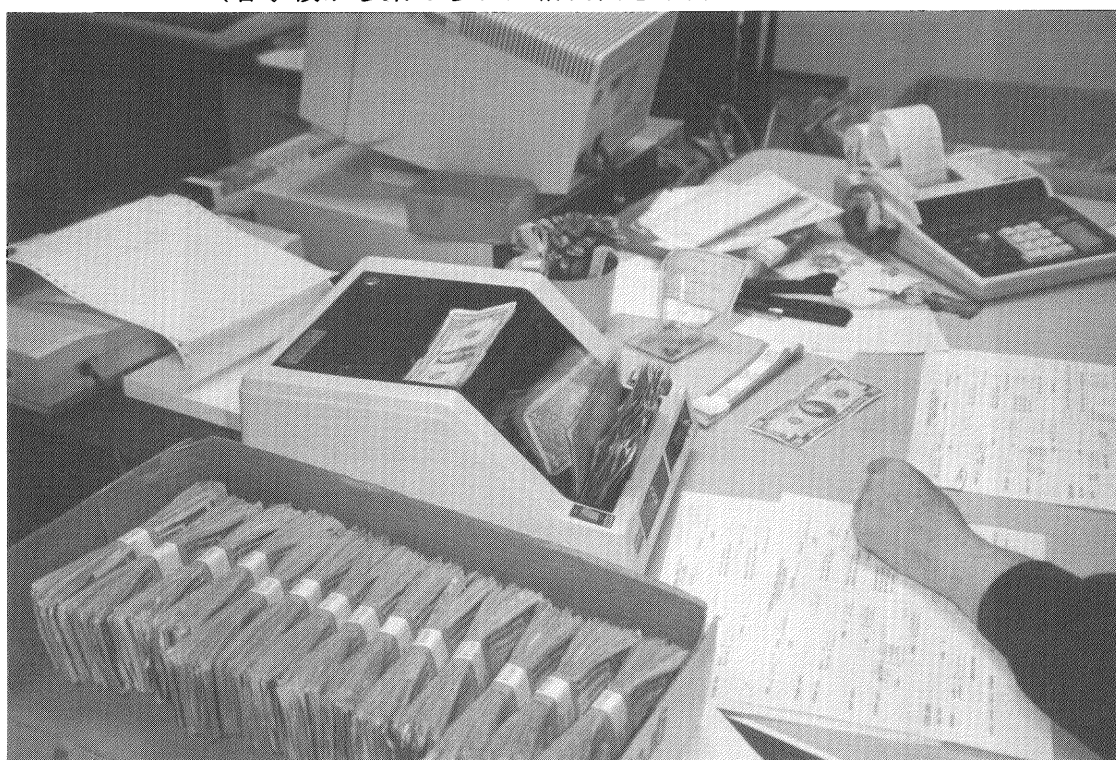
校の管理、財政、給食事務を一手に行っている。この事務所の学校給食プログラムにおける役割は次のとおりである。

- (ア) 各学校で必要な給食材料をまとめて購入し、保管するとともに、必要に応じて各学校の調理場へ配達すること。
- (イ) 毎日各学校で集められた給食費を取りまとめて銀行へ入金するとともに、無料、減額、全額負担給食の数を集計し、州政府へ報告すること。
- (ウ) 州政府を通じて交付される連邦負担金及び現物援助の物資を管理し、財政運営を行うこと。
- (エ) 各学校の給食のメニューを作成すること。

ウ この学校区の生徒の給食プログラムへの参加率は約40%とかなり低いが、家から食事を持参して、牛乳のみを買う生徒が多いためである。経費負担別の内訳は、無料が約30%、減額が約8%、全額負担が約62%となっており、オルバニー市学校区の生徒の家庭と比べると貧富の差が歴然としている。

朝食は2つの小学校で実施しており、1千百人の生徒のうち6百人が学校で朝食をとっている。参加率は約55%と高いが、学校区全体としては7%に過ぎない。1食あたりの給食（昼食）代は小学校が1ドル25セント（約131円）、中学校が1ドル35セント（約142円）、高校が1ドル50セント（約160円）となっている。生徒が給食代として支払う現金は、毎日学校区管理事務所に運ばれるが、その総額は7千ドル（約74万円）程度になる。ただしほとんどが1ドル札や25セント、10セント、5セント硬貨のため、大型の硬貨分別機や紙幣の枚数をカウントする機械が使われている。

（各学校から集められた給食代を集計しているところ）

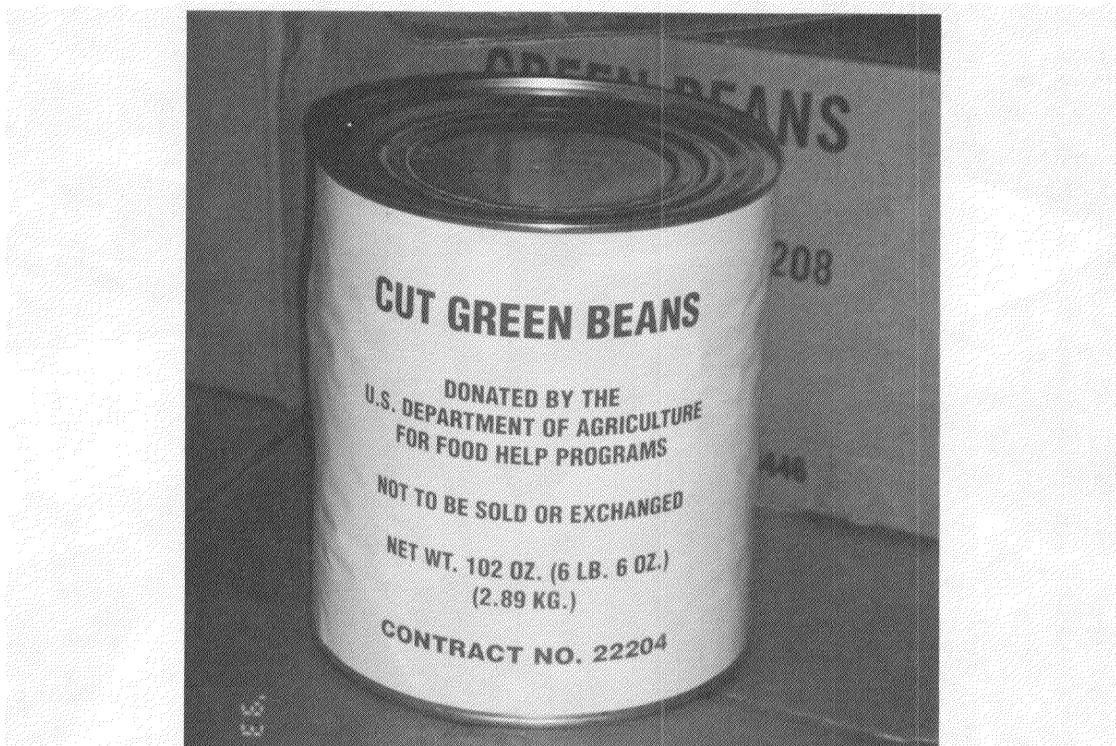


エ この学校区では現金で給食を買う代わりに給食チケットを購入することができる。保護者があらかじめ学校区宛てに小切手を郵送するとそれぞれの学校でチケットが生徒に交付される。また、無料給食を受けることのできる生徒もチケットを欲しい旨の手紙を学校区へ送ると学校でチケットが生徒に交付される仕組みになっている。このチケットは小学校、中学校、高校ごとに色が違うが、無料、減額、全額負担の別は分からないようになっている。ただし、チケットに刻印された番号によって事務所側は無料、減額、全額負担の識別ができる。これは、連邦負担金の交付を受けるため州政府に各区分ごとの参加者数を報告する義務があるためである。

この学校区でも毎年調理職員の人件費が約7%ずつ上昇しているため、財政運営に支障を来している。これからは効率的に連邦政府の物資援助を利用すると同時に職員の合理化を図っていききたいとのことであった。

オ 学校給食用倉庫 — 管理事務所の隣にある倉庫は管内の10校全ての食材、食器類などが保管されている。ここから週に1度の割合で必要な食材を運搬車が各学校へ運び、学校の調理場にある小さな倉庫に納められる。倉庫の中には、ところせましと大きな缶詰や箱が積み、まるで港にある食品会社の倉庫のようである。調理された牛肉、鳥肉、ターキーなどの肉類、ハウレン草、トマト、インゲンなどの野菜、桃、梨、さくらんぼなどの果物は缶詰にされている。これらの缶や箱に混じって、USDA FOODの印のある缶や箱も目立つが、これらは学校区の受給申請に基づいて連邦農務省から現物援助として交付された食材である。ハンバーグ、バター、魚のフライなどは倉庫の中にある大型の冷凍庫で保存されている。

(連邦農務省から交付された援助物資)



カ ゴワナ小学校 (Gowana Elementary School) — この学校の給食の特徴は、生徒たちの給食に対する興味を引くため、週に一度、各州の名物料理をメニューに入れていることと、牛乳容器をリサイクルしていることである。実際に給食として出された各州の名物料理を紹介すると、フロリダ・シトラス・サンシャイン・デーと銘打った日のメニューは、ディクシー・フリッター (チキンナゲット)、サンシャイン・ステイト・ソース (サンシャイン・ステイトはフロリダ州のニックネーム)、ポテトフライ、インゲン豆を煮たもの及びクッキーであった。その日はランチルームにフロリダの観光ポスターに州の旗、花、木、鳥などを切り貼りしたもの掲げ、食事を味わうだけでなく、同時にその州のことを学べるようにしている。

キ この学校では、成分無調整の普通の牛乳、乳脂肪の成分割合を落としたローファット牛乳、乳脂肪分ゼロのスキムミルク、それに甘さ、脂肪分ともに控え目なチョコレート牛乳の4種類の牛乳を用意している。これらの牛乳は同じ容器に入れているが、種類ごとに蓋が色分けされている。そして、生徒は飲み終わると決められた箱にその容器を入れ、牛乳業者がそれらの容器を回収し、洗浄した後、再び牛乳をいれて学校へ運ばれる。紙パックの牛乳を提供している学校が多い中でリサイクルに積極的に取り組んでいる数少ない学校の一つである。

(牛乳容器のリサイクル)



ク この小学校の場合、昼食時間は11時30分から1時30分までとなっていて、この間にクラス単位でランチルームにやってくる。家からランチボックスを持ってきた生徒も牛乳だけを買って、いっしょにランチルームで食事する。

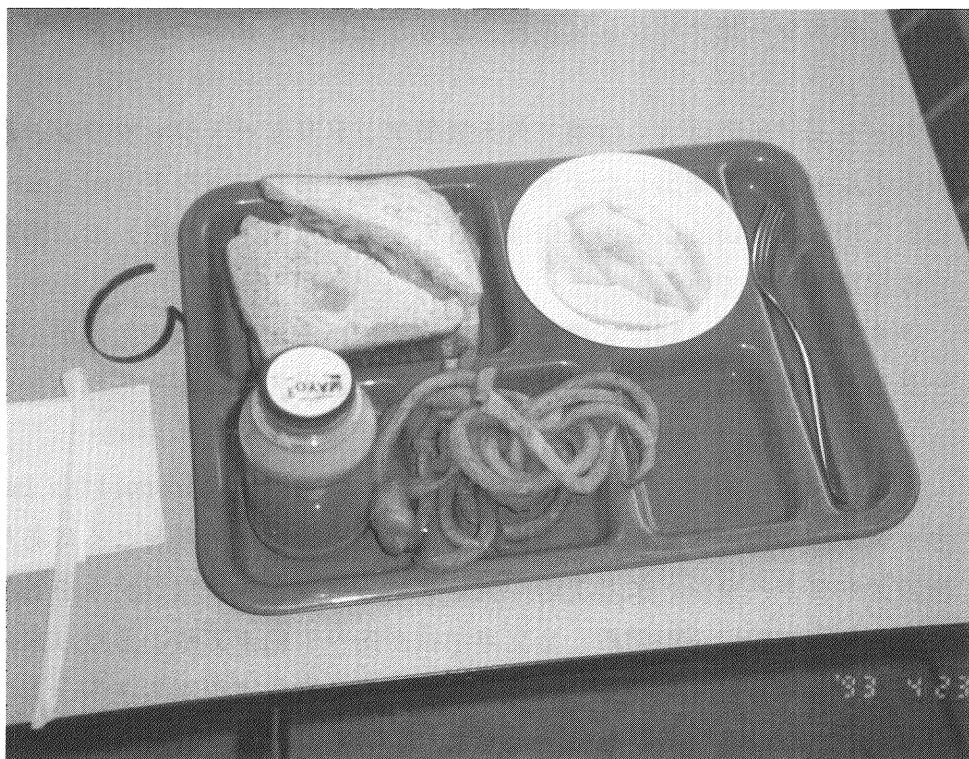
教室から来た生徒たちは配膳カウンターの前に1列に並び、サンドウィッチかハンバーガーのどちらか一つを選択できる。サンドウィッチはその場で作るので中に挟むもの、例えばターキーかハムか、トマト、レタスを入れるか、マヨネーズを塗るかなど選択することができる。生徒は調理職員から渡された食べものをカラフルなトレーに載せ、カウンターを進み、ポテトフライと野菜のスープをもらい、さらに4種類の牛乳の内から1本を取り、テーブルに向かう。テーブルの少し前にレジスターがある机が2つあり、調理職員の1人が座っている。生徒たちはここで給食の代金を現金かチケットで支払う。現金で支払う場合には学年クラス名と名前を言い、その場で無料、減額、全額負担のチェックが行われる。支払いが終わった生徒から順々にテーブルに着席して、思い思いに食事が始まる。この学校ではランチの間は担任の教師は一緒にテーブルに着かず、教員同志が固まって食事を取っている。担任の教師に代わって補助教員が生徒の面倒を見ているが、嫌いなものを残して、好きなものだけ食べていても注意することはほとんどなく、少々騒がしい時に注意する程度である。食事が終わるとまたクラス単位で残り物をごみバケツに入れ、牛乳の容器を回収箱に入れ、トレーとプラスチックでできた食器を回収カウンターへ返却し、教室へ戻る。食べ終えた後のテーブルを生徒が布巾で拭くことはなく、専門の職員が昼食時間が終了したのちランチルームの清掃を行う。

(給食の配膳風景)



ケ 教員の話によれば、給食は栄養のバランスが取れていて、育ち盛りの子供達の発育にかかせないものである。しかし、家ではコーラなどの清涼飲料水やアイスクリームなど脂肪分の高い物を食べている子供が多く、家庭での食事のあり方に疑問を投げかけていた。また、生徒と一緒に給食を食べないのは、この時間が唯一生徒たちから解放される自由な時間であり、拘束されたくないためという。

(メニュー
の一例：
ハムサンド
ウィッチ、
ポテトフライ、
ナシ、牛乳)



(ランチ
ルームでの
給食の
様子)

一方、生徒たちの反応は思ったほど良くはなく、“ Gross. ”（まずい）と一言で片付ける生徒もいれば、自分の好きなものがあまり出ないと不満を言う生徒もいる。少数ながら、各州の名物料理がでる日は楽しみにしていると言う生徒もいる。いずれにしても、給食の栄養面の価値までは生徒たちに理解されていないようである。

（３） テネシー州ナッシュビル市・ナッシュビル・メトロポリタン学校区

ア ナッシュビル市は古くは第７代大統領アンドリュー・ジャクソン、最近では現副大統領のアル・ゴアを輩出したテネシー州の州都であり、カントリーミュージックの発祥地として知られている。市の人口は４８万８千人（全米２５位）で、南部の中心都市としての役割を担っている。

テネシー州は朝食制度を積極的に実施している州の一つであるが、東海岸のニューヨーク州と南部の同州においては、取組み等に若干の違いがみられる。

イ ナッシュビル・メトロポリタン学校区 (Nashville Metropolitan Public Schools) はナッシュビル市の中心地から北東へ車で約２０分程行ったところにあり、ナッシュビル市のメトロポリタン・エリアの一部、デビッドソン・カウンティを管轄している。管内には１２小学校、４中学校、２高等学校があり、約１万６、８００人の生徒が通学している。付近は古い建物が多く、低所得者用の公営住宅が立ち並ぶ一方、ナッシュビル市のベッタウンとして新興住宅地もあり、いわばニューヨーク州のオルバニー市学校区とシェネンドホワ・セントラル学校区を一つにしたような雰囲気である。

給食（昼食）の参加率は約７０％で州の平均とほぼ同じ、経費負担別の内訳は無料給食が４０％、減額給食が６％、全額負担が５４％となっている。また、朝食プログラムの参加率は約３０％と州平均の２２％より高くなっており、経費負担別の内訳は無料給食が８０％、減額給食が６％、全額負担が１４％となっている。この学校区では倉庫を持っておらず、食材は各学校の倉庫に保管されている。

ウ 最近この学校区で問題化しているのは、調理器具の老朽化と調理職員の不足である。調理器具は１３～１４年も使用しているため、故障することが多く、調理に支障を来することがたびたびあり、今後購入のローテーションを計画的に行い、機械が一斉に耐用年数を迎えることのないようにしていく必要があるというが、他方調理職員の不足は予算上、人件費が極力抑えられているため、そのしわ寄せが現在働いている職員の過重労働という形で現れてきている。健全な財政運営を行うことが急務だが、連邦政府の負担金だけでなく、州政府、並びに学校区の一般会計からの援助が望まれている。

エ 管内のスワブ小学校 (Shwab Elementary School) を朝７時４５分に訪れたが、学校の外から直接出入りできるランチルームのドアの前に、８時から始まる朝食を待つ子供たちが２０人近く並んでいた。母親の運転する車に乗った子供たちが校舎の前で降ろされ、

朝食の列に並ぶ姿が見られるが、母親たちは車の中から振って市街地の方へ走り去っていく。並んでいる生徒の８割は黒人で残りが白人であり、ヒスパニック系やアジア系は見当たらない。皆空腹のせい、元気がなく、妙に落ち着きのない子供が多い。

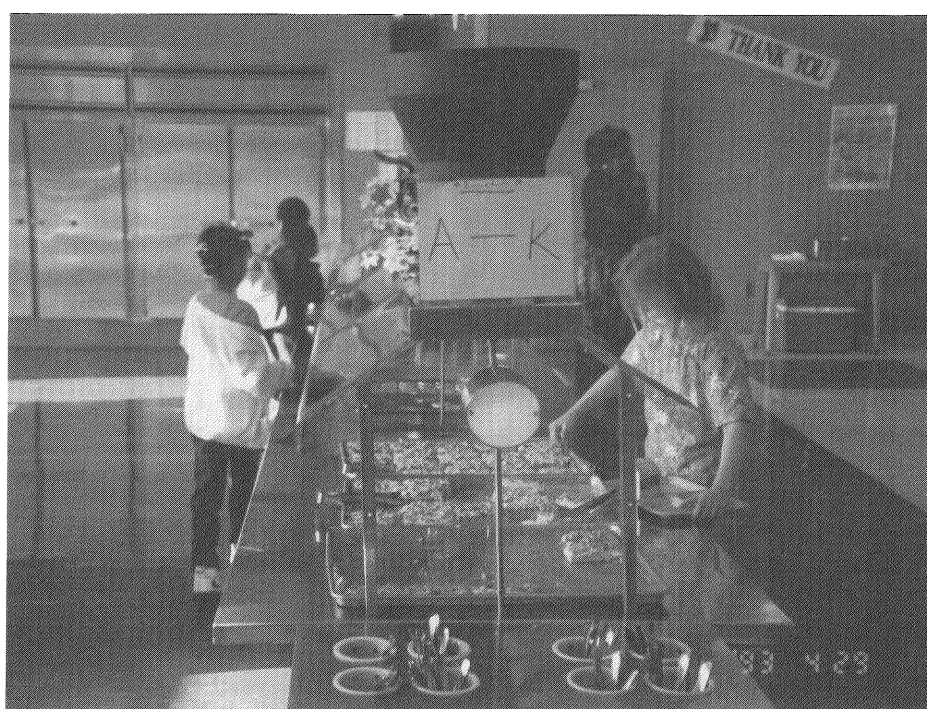
８時になるとドアが開かれ、生徒たちは一斉に中に入り、トレーが積み上げてあるテーブルを目指し、およそ３０人の生徒が各々のトレーに牛乳、グレープジュース、ピザ（肉、タマネギ、チーズ）を載せていく。この学校では成分無調整の普通の牛乳、乳脂肪分の成分割合を落としたローファットミルクにビタミンDを加えた牛乳の２種類だけが用意されている。

表５ ナッシュビル・メトロポリタン学校区、スワブ小学校の朝食メニュー

曜日	メニュー
月	アップルソース、全麦パンのトースト、シリアル（コーンフレークなど）、牛乳
火	オレンジジュース、ビスケット、ソーセージのパテ、牛乳
水	ミックスフルーツまたはバナナ、シナモンロールとピーナッツバター、ゆで卵またはスクランブルエッグ、牛乳
木	リンゴジュース、ホットケーキとシロップ、バター風味のオートミール、牛乳
金	パイナップル、シナモントースト、シリアル、牛乳

オ 朝食を載せた台は２つあり、それぞれＡ～Ｋ、Ｌ～Ｚの紙が貼られていて生徒は自分のラストネームの頭文字が属する台からセルフサービスで食事をトレーに載せる。トレーに朝食を載せた生徒は最後に給食職員が座る机のところで学年クラスと自分の名前を告げる。職員は名簿でその生徒が無料で朝食を食べることのできる生徒か、減額朝食の対象者か、朝食代を全額徴収すべき生徒なのかを確認する。

（ピザが
のせられた
配膳代）



この学校ではチケットはなく、すべて現金によるものとされているが、当日、現金を払っている生徒はほとんどいなかった。8時10分過ぎにはスクールバスが到着し、多数の生徒が食堂に入ってきた。平均食事時間7～8分で食べ終えた生徒はトレーを回収カウンターへ返却し、教室へ向かう。

カ ランチルームの壁には紙に書かれた「他人に許可を請うときは必ず『MAY I～（～してもよろしいですか）』を使うこと」、「他人にものを頼むときは必ず、PLEASE（どうか～してください）をつけること」といった標語が張られていた。この学校の教師の話によると、低学年の生徒には食事の際、必ず教師か補助教員が付いて子供たちがきちんと全部食べるように指導したり、食べ物のことについて話をすることであった。中には、宿題を忘れた生徒に給食中誰とも口をきかず、一人で食べるという罰を与える教師もいるという。

食事中、解放感からどの生徒も大声で会話したり、食べ散らかすことが多く、教師にとっては悩みの種であるため、ある学校ではランチルームに信号機を置き、生徒が静かに食事をしているときは青色、少しうるさくなってきたら黄色に変え、注意を促すが、それでも静まらない場合は赤色に変え、警報を鳴らすという奇抜な方法で効果を上げているという話も聞かれた。

多くの生徒はほとんど残さず食べていたが、中には給食職員の了解を得て2つ目のピザに手を伸ばす生徒もいた。試食の結果は、冷凍ものをオーブンで暖めたピザはまずくはないが、美味しくもない。

なお、この学校区では、2週間に1度くらい、給食の栄養やその働きについて生徒たちに話す機会が設けられている。

（朝食：ピザ、グレープジュース、牛乳）



キ 次に訪れたハンターズ・レーン高校のランチルームは、日本の大学の学生食堂のような自由な雰囲気、皆思い思いの服装で賑やかに食事をしていた。ランチルームにはジュース（１００％果汁のみ）の自動販売機が３台ほど並び、その横には「ガム、ソーダ禁止」の張り紙がされていた。給食の配膳室は３つに分かれており、一つは自由に好きなだけ取ることができるサラダ・バー、一つはサンドウィッチ、ハンバーガー、ピザなどを選べるカウンター、そしてもう一つはミルク、果汁ジュース、ケーキ、果物を買うことができるカウンターである。そのほかにポテトチップス、アイスクリーム、チョコレートといったスナック類を販売するコーナーもその一角にあった。配膳風景はまさにファーストフード店そのもので生徒は自分の好きなものを好きなだけ注文し、受けとり、お金を払い、カフェテリアのようなランチルームへ移動する。支払いの際には、やはり氏名、クラスを職員に告げて各自の負担割合に応じた代金を支払う仕組みになっている。

給食（昼食）のメニューは小中学校に比べて選択肢が多く、メインディッシュだけでも４種類あり、その他のアイテムと合わせると組合せは無限大である。

表 6 ハンターズ・レーン高校の給食メニュー

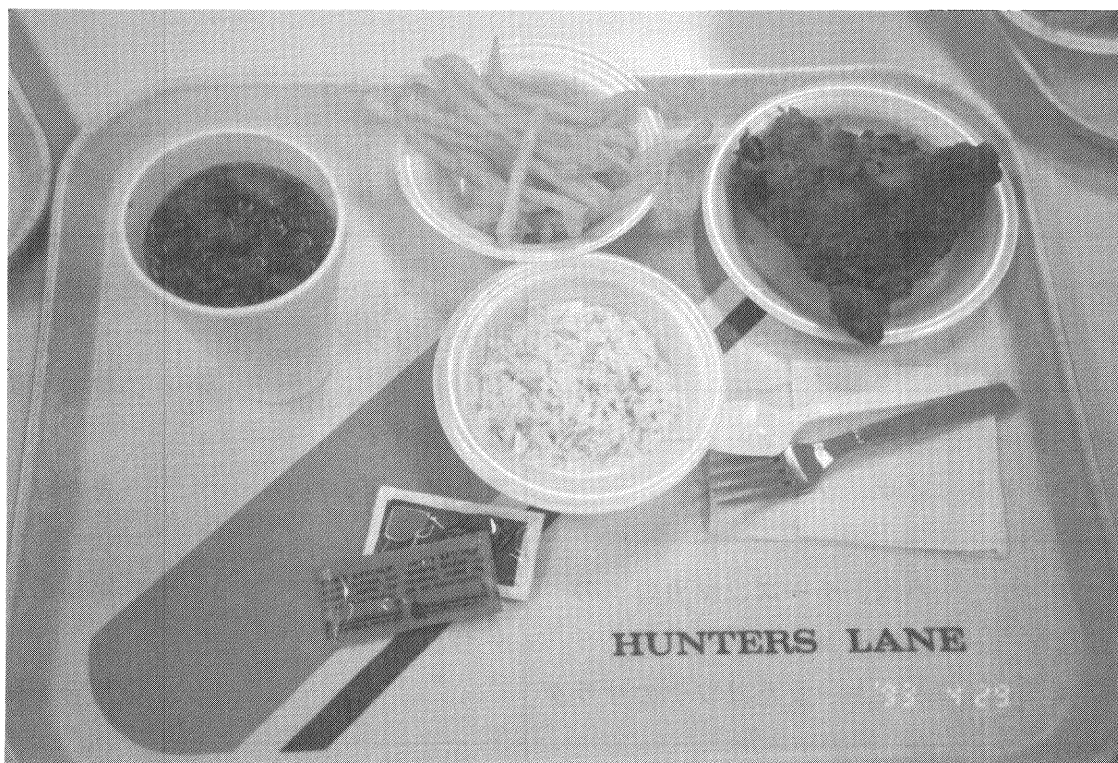
種 類	メインディッシュ	野菜またはサラダ	牛 乳
グリル	ホットドック、ピザ ツナサラダ	コールスロー、 ポテトフライ、 桃のスライス、 煮たインゲン豆 スイカの中から 一つか二つ	成分無調整 の普通牛乳 または 乳脂肪の成 分割合を落
インター ナショナル	スパゲッティーミートソース ピザ、ツナサラダ		
U S A	ハム、チーズ、マカロニの グラタン、牛ステーキ、 ターキーまたはツナのサラダ		
エクスプレ ス	チーズピザ、 ターキーまたはツナのサラダ	オレンジまたはグレープ ジュース、ポテトフライ リング 1 個、オレンジ 1 個の中から一つか二つ	としたロー ファット牛 乳

ク 以上の給食は1食当たり1ドル30セント（約137円）で食べることができる。減額給食は40セント（約42円）で約69%の減額率となっている。このほか、サラダバーを利用することもでき、好きなだけ野菜を取ることも可能である。その一方でスナック類の販売も行っているが、これは生徒からの強力な申し入れに基づくものという。

大量の給食を食べているアメリカン・フットボール部の男子学生もいれば、少量のサラダに牛乳、リンゴだけという女子学生や、ポテトチップスにジュースだけの生徒もいるなど様々であるが、生徒の中にはベジタリアン（菜食主義者）もいるので（宗教上の理由によるものとそれ以外の場合がある）、将来的にはベジタリアン向けの給食も考える必要があるといわれる。

小中学校で多数見られたランチボックス持参者はほとんどいない。この学校では自動車による通学が許可されているが、自宅へ戻って昼食を食べる生徒はほとんどおらず、近くのファーストフード店へ行く生徒が少々いるとのことであった。

（高校の給食メニューの一例：フライドチキン、ポテトフライ、コールスローサラダ他）



ケ ニューヨーク州オルバニー市及びテネシー州ナッシュビル市における給食（朝・昼食）プログラムの実施状況について述べたが、給食制度は州はもとより、学校区によっても実施方法が異なるため、以上の実態はアメリカの全ての州や学校に共通するものではないことを改めて付記しておきたい。

6 おわりに

ア 連邦政府の財政赤字と貿易赤字の双子の赤字を抱えるアメリカ政府は、1993年8月に所得税、法人税、ガソリン税の増税と連邦政府の歳出削減を柱とした財政赤字削減法を難産の末、成立させた。また、9月には行政改革担当のアル・ゴア副大統領が25万2千人の連邦政府職員削減と1千80億ドルの歳出削減を骨子とした改革案（リインベンティング・ガバメント）をクリントン大統領に答申している。今後行政府のあらゆる無駄が取り除かれ、既存の事業、プログラムの見直しが図られるのは必至の状況とみられ、学校給食プログラムといえどもその例外とは必ずしもならないものと思われる。

イ アメリカの給食制度は単に学校において栄養のある食事をとり、栄養のバランスがとれた食生活について学ぶという元来の目的を超越し、貧困にあえぐ子供たちにとって、必要不可欠な食事であり、いわば生命線ともなっている。とはいえ、1982年には連邦政府の負担金が削減されたという過去を持っていることでもあり、今後の行政改革を通じて縮小される可能性は十分にありうるものといえよう。

ウ 現下の政権を担うビル・クリントン大統領はアーカンソー州知事時代に全米の注目を浴びる教育改革を行なったことで知られている。南部の貧しい小さな州で、ヒラリー夫人を委員長とする教育改革委員会を組織し、生徒に進級テストを義務付けるとともに教師に対しても能力試験を課した。また、教育財源である固定資産税の税収に左右される学校区の財政運営を立て直すため州の補助金を増額し、貧しい学校区に補助金を傾斜配分することにより、貧富の差に関係なく平等に教育行政が行なえるよう学校区の質の均一化を図った。州レベルでの教育改革の実績を持つクリントン大統領は、今後全米レベルでの教育改革を推進していくものとみられる。

エ 子供は国の宝であり、子供への教育をより充実していくことがアメリカ再生への道であると公言しているクリントン大統領が、教育の機会均等を実現するための一つの手法である学校給食制度を今後の教育改革あるいは行政改革の中でどのように存続させあるいは変革していくのか注目する必要があるだろう。

7 主な参考文献

- 「National School Lunch Program」 Office of Government Affairs, Food and Nutrition Service, U.S. Department of Agriculture, October 1992
 - 「Child Nutrition Program Operations Study (Third Year Report)」 Food and Nutrition Service, U.S. Department of Agriculture, 1993
 - 「The National School Lunch Program」 The University of the State of New York, New York State Education Department, 1991
 - 「Breakfast at School: A Good Start for Learning」 The University of the State of New York, New York State Education Department, 1992
 - 「Statistical Abstract of the United States」 Bureau of the Census, U.S. Department of Commerce, 1991
 - 「The 1992 Almanac」 Houghton Mifflin Company, 1992
-
- 「学校給食要覧（平成4年度版）」日本体育・学校健康センター、第一法規出版
 - 「いま考える学校給食」新村洋史、汐文社、1992
 - 「東京都における学校給食の実態（平成3年度）」東京都教育委員会
 - 「アメリカの教育」喜多村和之、弘文堂、1992
 - 「ボストンの小学校」梶田正巳、有斐閣、1983

「CLAIR REPORT」既刊分のご案内

NO	タ イ ト ル	発 刊 日
第88号	アメリカの学校給食	1994/ 6/20
第87号	現代フランス都市計画の手法（2）	1994/ 5/30
第86号	現代フランス都市計画の手法（1）	1994/ 5/30
第85号	フランス・アキテーヌ州の沿岸リゾート整備	1994/ 5/27
第84号	地方公務員のための「イギリス憲法入門」	1994/ 5/23
第83号	統一ドイツと財政調整 -連邦制財政システムは生き残れるか-	1994/ 4/15
第82号	アイルランド -国の仕組みと地方自治-	1994/ 3/25
第81号	イングランドの地方団体と住宅政策	1994/ 3/15
第80号	内側から見た英国	1994/ 3/15
第79号	英国の地方団体構造改革の動向	1993/12/24
第78号	英国社会保障の現状及び今後の動向	1993/10/15
第77号	イングランドとウェールズの水道	1993/10/15
第76号	フランスの高齢者福祉（2）	1993/ 9/30
第75号	フランスの高齢者福祉（1）	1993/ 9/30
第74号	英国の1993年統一地方選挙	1993/ 8/31
第73号	コントラクト・シティ	1993/ 7/30
第72号	英国における地方議員と地方行政	1993/ 7/20
第71号	ロンドンの地方団体について	1993/ 7/12
第70号	フランスの地方公務員制度 -第2部-	1993/ 7/12
第69号	シティズン・チャーター -現代版マグナカルタ?-	1993/ 6/30
第68号	米国の成長管理政策（2）-州政府編-	1993/ 5/20
第67号	米国の成長管理政策（1）-総論・地方政府編-	1993/ 5/20
第66号	フランスの地方公務員制度 -第1部-	1993/ 3/31
第65号	英国の学校における日本教育	1993/ 3/31
第64号	ニューヨーク州スカーズデール村（米国地方自治の現場 Ⅲ）	1993/ 3/25